

やまゆりニュース Vol.28

川崎市麻生区市民活動支援施設 麻生市民交流館やまゆり

令和元年

市民活動の中核施設としての責任を再確認！

川崎市の「希望のシナリオ」の実現に向けて・・・

麻生

市民交流館やまゆり（以下やまゆり）を

管理運営している「認定NPO法人あさお市民活動サポートセンター」は5月25日（土）に総会を実施し、活動を支援していただいている正会員の皆さまに、平成30年度の活動実績を報告し、平成31年度（令和元年）の活動内容を紹介させていただきました。

◆主な報告内容

①平成30年度はNPO法人として10周年を迎え、「変化できるもののみ生き残れる！おなじことを情性で続けるのは・・・」という考えのもと、「NEXT10構想」に基づき、特に運営のITC化を進めました。

②10年間にわたり「やまゆり」の活動を支え続けていただいた「賑わいプロジェクト」「あさおPC楽会」「やまゆりテック」「あさお区民記者クラブ」の皆さんに謝意を表しました。

③活動団体には、これから情報発信が最重要と考え、「パワー向上セミナー」を開催。毎回定員を超える参加者でしたが、特に希望者が溢れキャンセル待ちが多かった「チラシ作成講座」「スマホ活用講座」については追加講座を実施しました。

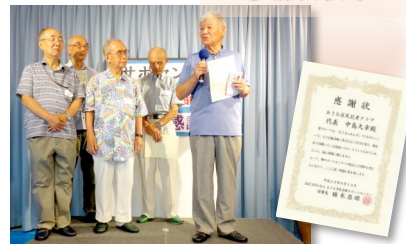
④当センターの「NEXT10構想」では、コミュニティづくりのエンジン役として、人と人、人と団体、団体と団体のマッチングを目指しています。令和元年度には、さらにテーマをしぼった「場」「シニア」「健康」などのネットワーキングを進めたいと考えています。

⑤川崎市の施策である「これからのコミュニティ施策の基本的な考え方（目的は★）」に基づき、「NEXT10構想」との連携を図り、中間支援施設としての役割をはたしていきたいと考えています。

★暮らしを取り巻く環境の変化がもたらすさまざまな将来リスクを回避し、基本理念を踏まえて将来像を描いた「希望のシナリオ」の実現に向け、多様な主体の連携により、「市民創生」による持続可能な暮らしやすい地域を実現する。

理事長 植木昌昭

感謝状授与



↑10周年記念式典で感謝状を授与された各団体の代表者

人気の講座を開講



←受講申し込みが殺到し、追加講座も行ったチラシの作り方講座

麻生市民館やまゆり 稼働状況の推移

	会議室利用 (回数)	利用者数 (人数)	利用登録 (団体数)
平成20年度	1,141	16,821	421
平成21年度	1,347	18,897	466
...	...	...	...
平成30年度	2,272	20,270	636

★平日の会議室利用率は95%を超え、夜間（17時以降）の利用、土日・祝の利用も増えてきている。シーズンによっては抽選になる状況。利用者は年間2万人前後と安定した数字を維持している。

目次

A あさおの昔

エッ！こんなに大きな松があったの

P2

S 知っていますか？

電気の旅 百合ヶ丘変電所

P2

A 麻生のNewスポット

みんなが集まる、やさしい家

P3

O お役立ち情報

まぶね食堂

食事がつなぐ地域の輪

P3

●あさお区民記者大募集！

P4



往時の巨大な姿（根本の右側にたたずむ2人から大きさがわかる）

その巨木は大きいだけでなく、見事な枝っぷりで、小学生が遠足で訪れたり、地元の人が行楽で訪れたりする、憩いの場であった。

街の記憶を掘りおこす あさおの昔



エッ！こんなに大きな松があったの

麻生区百合丘の弘法松公園には、かつて弘法松（こうぼうのまつ）と呼ばれる黒松の巨木が凛としてそびえていた。推定樹齢は数百年

残念ながら1956年（昭和31年）に根本が半分消失してしまい、ほどなく伐採された。原因は落雷という説と、たき火の不始末という説がある。松が生えていた公園の丘陵の南端には、「弘法松跡」と刻んだ石柱と、往時の姿をしのばせる写真を貼り、解説を添えた掲示板が立っている。また、麻生警察署の玄関の左側には松の姿を描いた銅板製のレリーフがある。是非一度訪れてほしい。



枝の見事さがしのばれる



1957年（昭和32年）の姿
養生のために枝が切られている

弘法松公園へのアクセス：小田急小田原線「百合ヶ丘」駅から徒歩10分、または「百合ヶ丘」駅から百01・02/バスで5分「弘法の松」下車徒歩2分

取材・文 中島 久幸

知っていますか？



電気の旅 百合ヶ丘変電所

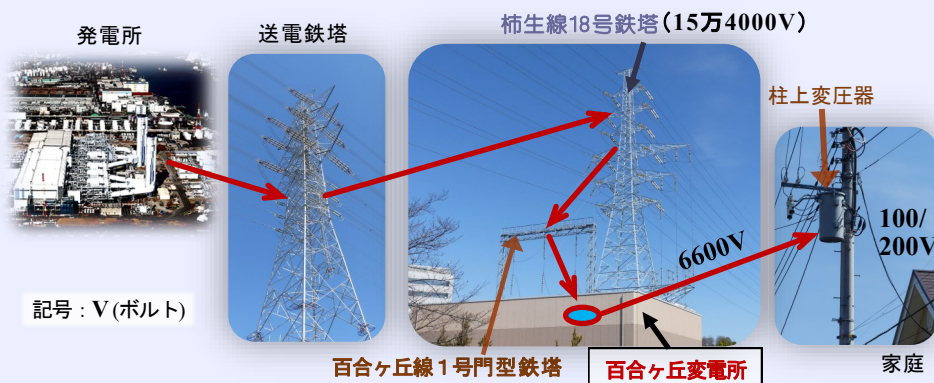
百合丘3丁目バス停そばの小さな王禅寺見晴し公園からの眺望はすばらしい。箱根、丹沢、秩父の山、遠くには富士山が見える。眼下の麻生のまちは、芽吹きの中や葉が染まる秋は、都会とは思えないオアシスになる。

壮大なパノラマのなかにふと気づく。なんと、鉄塔が多いことか。送電線が各方面に延々と続いている。そして、街なかには、昭和音大の北隣に東京電力パワーグリッド株式会社百合ヶ丘変電所がある。

ライフラインの電気は、どのように送られ、私たちのビルや家庭に届くのだろうか。

火力、水力、原子力などの発電所で発電された電気は、6万6千ボルト〜15万4千ボルトの特別高圧電線で消費地に送られてくる。送電線は「鋼心アルミより線」で、太さは通常3〜4cmの裸線。鉄塔の高さはおよそ20〜70m。さらに、配電用変電所で6千600ボルトに電圧を下げ、配電線を通して直接、ビルや工場に送られたり、電柱に設置されている柱上変圧器で100/200ボルトに下げられて、引込線で私たちの家庭に届けられる。百合ヶ丘変電所は、この配電用変電所であり、周辺のビルや家庭に電気を供給している。

百合ヶ丘変電所に隣接した柿生線18号鉄塔で分岐した送電線が門型鉄塔を経由して百合ヶ丘変電所に入る



私たちの生活には欠かせない電気。一方、切実な地球温暖化の環境問題がある。私たちは、電気を無駄に使わず、石油や石炭などの化石燃料から、太陽光、水力、風力の自然エネルギーを利用していく社会をつくりたい。

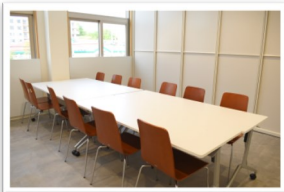
取材・文 石崎 純也



階段を上がり右のドアから
カフェへ。その奥にレンタル
スペースがある



レンタルスペースは飲食物の
持ち込みも、カフェメニューの
ケータリングもできる



一定の条件を満たせば
夜間の貸し切り利用が
可能

カフェ アンド スペース エル・ディー・ケー

CAFÉ & SPACE L.D.K.

所在地：川崎市麻生区栗平2-1-6

小田急マルシェ栗平2階

アクセス：小田急多摩線「栗平」駅北口から
徒歩1分

連絡先：Tel. 044-455-4551

営業時間：9～18時

定休日：水曜日

URL：http://www.cafeandspace-ldk.jp

* 予約・問い合わせはWEBサイトにて

麻生のNewスポット



みんなが集まる、やさしい家

コミュニティ施設「CAFÉ &

SPACE L.D.K.」は、地域活動グ
ループの交流拠点になることを目
指している。地域の繋がりが多様
に広がり、思わぬコラボレーショ
ンで、街の新たな魅力が生まれそ
うだ。

施設中央にあるカフェは開放感
にあふれ、まるでツリーハウスの
気分。ふらりと立ち寄り、誰で
も、誰と一緒にでも、くつろげる。
おしゃれで居心地がよく、テン
ションも上がり、ぜいたくな気持
ちで過ごしていると、今日を、明
日を、とびつきの日常に仕上げ
る構想が、思い浮かびそう。
ワークスペースには、隣席と仕

切りが付いた机が並び、自分の
書斎感覚で勉強や仕事に集中で
きる。助走をつけて跳躍しよう
とする大人を応援する。

レンタルスペースは全3室。
1室はキッチン付きで、料理教
室やホームパーティーも開け
る。パーティションを外せば48
席が確保でき、ワークショップ
やイベント、ミーティングな
ど、使い道も広がる。何かでき
そう！仲間ができそう！そん
な思いに駆られる。

「一人がスキだけど、独りは
イヤ」それでも大丈夫。ここ
は、しなやかな繋がりが生まれ
る空間、みんなのやさしい家だ
から。

どうぞ、おいでなさい。

お役立ち情報



まぶね食堂

「食事がつなく地域の輪」



「朗読の会りんどう」が来てくれたこともあ
ります

まぶね教会（麻生区下麻
生）で、毎月開かれている「まぶ
ね食堂」は、2017年2月にこ
ども食堂としてスタートし、2
019年4月で26回目を迎えた。
同教会の石井智恵美牧師、企
画運営を行うまぶね食堂運営委
員会の前代表小平慎一さんは、
食堂をはじめた理由を「麻生で
も孤食の改善や安心して食事の
できる場を提供しようと思いま
した。子どもだけでなく、誰でも
一緒に食事のできる場、食事を
通じ地域の方たちが交流できる
場を作りたいと思っています」と
語る。

時半からカレーライス、サラダ
や餃子の準備をすすめていた。
大量の食材がメンバーの会話
と笑い声のなかで次々と姿を変
えてゆき、見ているこちらまで
楽しくなる。子どもは、希望すれ
ばホットケーキを焼くこともで
きる。はじめは参加者がいない
こともあったが、昨年ごろから
毎回50～60人で安定している
そうで、この日も会場は子ども
連れの家族、高齢の夫婦など
にぎわっていた。そんな参加者
に澄み切った声でハローモニーを
聴かせてくれた2人の少女、障
がいはいあっても満面の笑みでバ
イオリンを奏してくれた男性な
ど、お腹も心も満たされる時間
だった。

しょうどう

まぶね食堂

わたなべ よしこ

代表：渡邊 良子

連絡先：Tel. 044-988-1104(まぶね教会)

設立：2017年2月

活動日：毎月第2土曜 12～14時

活動場所：まぶね教会

(麻生区下麻生2-27-30)

費用：大人300円、高校生以下無料
(ボランティア参加者、献品、献金を大歓迎)



「あさお区民記者」大募集！

いま、この「やまゆりニュース」を読んでいる皆さん
今度は読む側からつくる側に回ってみませんか？
皆さんの参加を待っています



「やまゆりニュース」は2・6・10月、
「あさおふれんず」は4・8・12月に発行

認定NPO法人あさお市民活動サポートセンターの活動の一環として、「やまゆりニュース」と「あさおふれんず」というコミュニケーションペーパー2紙をつくっているのが「あさお区民記者クラブ」です。

麻生市民交流館やまゆりの広報紙として身近な話題を伝える「やまゆりニュース」。ボランティアグループや趣味のサークルなど麻生区内の市民活動を紹介する「あさおふれんず」。それぞれ年3回の発行で、日々の暮らしに役立つ地域の情報を発信しています。地元の仲間たちの輪のなかで、人々やグループの間の橋渡し役を務めているとも言えるでしょう。

その2紙の取材をして記事を書くのが区民記者の仕事です。記者といっても特別な技能を必要とするわけではありません。人と話をするのが好きで、何にでも興味や関心を向けられるようなら、それで十分。あとは出かけていっていろいろな話を聞き、面白いと思ったところをそのまま文章にすればいいのです。日々、さまざまな人やさまざまな出来事に接する楽しみ、それが区民記者の仕事の魅力というわけです。

きれいに整った住宅街というイメージの麻生区。新しい街でもあり、住民同士の交流はやや希薄かもしれませんが、そんななかで、地域の新たな絆をつくる手助けをしていくのが区民記者です。一緒に「つながる麻生」をつくっていきましょう。



取材にあたる区民記者。「いい記事をと、やりとりにも熱がこもる。」

あさお区民記者クラブ

なかしま ひさゆき

代表：中島 久幸

連絡先：Tel. 080-5087-2665 (中島) info@asao-ku.net

設立：2008年

記者：現在9名（男性6名、女性3名）

活動日：原則として毎月第2木曜15時から編集会議
取材は適宜行つ

活動場所：麻生市民交流館やまゆり（編集会議）
ほか麻生区全域

ホームページ：http://www.asao-ku.net

さあ、あなたもあさお区民記者クラブのドアをたたいてみてください。
扉を開ければ、いままで気がつかなかった我が街の多彩な姿が見えてきます。

★麻生市民交流館やまゆり

【開館日】

月曜～金曜 9時30分～17時
※平日の夜間～20時15分、
土・日曜、祝日も予約をすれば利用可。
休館：年末年始、施設点検日

【アクセス】

小田急線「新百合ヶ丘」駅
南口から徒歩約4分

【ホームページ】

http://yamayuri.ne.jp/

